

第234回 「元気に百歳」クラブ・俳句サロン「道草」(9月)句会記録

アスファルト道路が溶けだすのではないかと思われるような暑さ、そこで7月、8月の句会はお休みにして、この猛暑の通り過ぎるのを待っておりました。残念ながらこの厄介者は、通り過ぎてくれずに居残ったまま、句会のあった9月13日（金）も、日陰を探して句会会場の「新橋ばるーん」に向かいました。さあ楽しい俳句の時間です。

9月の第1週に投句し、本間傘吉さんに作成していただいた投句一覧を纏めていただきました。傘吉さん有難うございます。この後、私たちは自宅で選句というキーポイントの作業を終え、句会当日を迎えるのですが、今月の出席状況は下述の通りです。

○ 投句に参加して下さった方々のお名前（17名）

芦川創風さん、板倉歌多音さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、
金田月草さん、君塚明峰さん、木村栄女さん、坂上まさあきさん、高瀬荻女さん、
辻 柴樂さん、手嶋錦流さん、原 晶如さん、船戸清助さん、本間傘吉さん、
森田多佳さん、芦尾自然（なお句会欠席は中島憧岳さん、句会には君塚明峰さんは
参加して下さいましたので、17名の句会となりました）。

○ 句会に参加された方々のお名前（10名）

月草さん、一光さん、多佳さん、傘吉さん、創風さん、荻女さん、
明峰さん、晶如さん、和感さん、自然。

○ 句会当日、皆さんが優良句として選句された結果をまとめ、披露致しました。欠席の方7名の句は、奥田さんが披露し、「さらに優秀句に磨き上げるには、どうすればよいか」など、疑問点や不明なことをディスカッションしました。これらの纏めは傘吉さんにお願い致しました。傘吉さん有難うございました。

◎『独り酌む酒も尽きたり鉢叩き』	傘吉	天2☆6
◎『ゆらゆらと蕊に溺れる秋の蝶』	清助	天2€4
◎『落ち石榴この家に何かある気配』	晶如	天2€2
◎『店仕舞ひここにも一軒秋の風』	まさあき	天1☆5。
◎『また来るね会えて嬉しい墓参り』	錦流	天1☆5
◎『早朝の読経の如し秋の蝉』	白然	天1☆5
◎『かなかなの声宿題の背中押す』	歌多音	天1€3
◎『大転び痛し恥ずかし秋暑し』	一光	天1€3
◎『背筋伸び老紳士持つ秋日傘』	柴樂	天1€3
◎『地震野分地球の星の嘆きかな』	和感	天1€2
◎『黄昏の己が足音律の風』	多佳	天1€2
◎『爽やかに妓の襟足は匂いたち』	栄女	天1€2
◎『秋高し校歌高らか甲子園』	歌多音	天1€2
◎『秋出水日本列島脅かす』	和感	天1€1
◎『駿河路や素肌の富士は秋迎え』	栄女	☆6

句会のディスカッションで出た事項

○ 自分の詠んだ句は、「舌頭千転（芭蕉師のお言葉です。千転はオーバーとしても、せめて百転は・・・）、声を出して読み、その句が「リズム良く読めるかどうか」をチェックしましょう。今月の優良句の中では、次の句がリズミックではないでしょうか。

- ◎『駿河路や素肌の富士は秋迎え』 栄女
◎『ゆらゆらと蕊に溺れる秋の蝶』 清助

- 俳句は短い17音、「それがどうした」と問われても、「この句には、こういう意味を持たせました」と、質問した人を納得させる準備が出来ていることです。そしてもう一つ、最も重要なことは「季語が句の中心にあるかどうか」です。これができれば満点です。
- 句の中に使う助詞は、「最も的確な助詞が使われているか」を、何度もチェックすること。短い言葉の意味を、句の中で有効に活かし、句に広がりを持たせるのは、助詞であることが多いです。繰り返し言いますが「俳句は十七音の短い詩」です。1字たりとも無駄にできません。

今月は、傘吉さんの句「独り酌む酒も尽きたり鉢叩き」が、天賞二つと最多票6票を獲得しました。この句の季語は「鉢叩き」、鳴き声が可憐な秋の虫です。虫が鳴いている秋の夜、手酌で飲んでいる酒も尽きて、残るは鉢叩きの鳴き声だけという、寂寥感を一身で受け止めている句に、読者も共感したのでしょう。秋の余波淋しいですね。

次に天賞は付きましたでしたが、同じく最多票6票を獲得したのは、栄女さんの句「駿河路や素肌の富士は秋迎へ」でした。上五の「駿河路」からは、旅の途中で見える稜線の美しい富士が浮かびます。これが中七の「素肌の富士」となると、これは登れば判ることがですが、ごつごつとした石が頭に浮かびます。また高山の秋は短く、山を登ることは容易ではありません。この句は富士山のその辺りの事情が、一挙に飛び込んでくる仕掛けが出来ています。ただ自然はこの句に一票を投じませんでした。それは「秋迎え」があったからです。これが正しく「秋迎へ」であったなら、即一票を投じました。「俳句はリズム」にも入る魅力ある一句でしたが、自分の反省も含め、俳句のあらゆる場面では正しい字句を使いたいですね。

口語体の句と文語体の句

今回の「ひと言」に、口語体の句と文語体の句について、特に口語他の句を挙げさせてもらいました。その後、本間さんが作って下さった句会の結果まとめを再読させていただきますと、奥田和感さんの句「洗う前破ってよろし障子貼り」も、口語体の句です。念のため再度例挙しておきます。

- ◎『温もりの手よりつたわる初月夜』 清助
- ◎『桔梗咲き君への思い膨らんで』 錦流
- ◎『また来るね会えて嬉しい墓参り』 錦流
- ◎『好きな花コスモスなのと伝えた日』 多佳
- ◎『洗う前破ってよろし障子貼り』 和感

これは次回の句会のときに申し上げますが、『この句は「口語体」で詠んだ』ということを予め、句の初めに宣言しておいて下さると、助かるのです。これは口語体の送り仮名をつけるときに判ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

自然記